

令和4年度

学校自己評価表（報告）

		学校運営計画		
学校運営方針		「誠実で自立して在る若人の育成」のために、①自他の心と生命を尊重する精神の涵養、②継続的に努力する気力・体力の養成、課題解決能力の向上、③確かな学力の定着と進路希望の実現を図る。更に教員の勤務時間の上限に関する方針の遵守を図る。		
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
医療専攻の5期生が卒業し、高い割合で看護・医療系大学等へ進学し成果を上げた。医療専攻や総合的な探究の時間の活用をとおして、キャリア意識を啓発し、それらを進路選択に活かしていくことが課題である。 大学短大進学希望者に対して、例年並みの進路希望実現ができたが、組織的指導のさらなる改善に努める。 PTAと連携した街頭指導を実施した。今後も交通安全指導に努めていく。 いじめの問題については、今後ともいじめ対策推進教員を中心に組織的に対応し、随時、生徒との面談を行い、早期発見、早期対応に努める。		円滑な校務運営と教育課程の実施に努め、探究活動とICT等の活用による確かな学力の定着を図り、進路希望達成を支援する。	円滑な校務運営と教育課程の実施による授業時数確保とICT等を利活用した確かな学力の定着を図る。 継続的で組織的な進路指導体制を確立し、探究活動等を通じて、生徒の多様な進路希望達成を支援する。	
		基本的生活習慣の確立を促す中で規範意識の涵養に努める。また交通安全指導を徹底する。	基本的生活習慣確立を促す指導を徹底する。 生徒の自主的・自律的な生活態度の確立を促し、規範意識の涵養に努める。	
		部活動と学校行事の活性化を促して学校生活への満足度を高め、心身ともに健康な学校生活を送ることができるよう支援する。	部活動と学校行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動しようとする態度の育成に努める。 保健指導と教育相談体制を充実させ、生徒が心身ともに健康な学校生活を送ることを支援する。	
		PTA活動のさらなる活性化を図る。また、生徒の利用しやすい図書環境作りに努める。 教員の時間外勤務時間を縮減する	懇談会の実施やPTAだより等の発行によって保護者との連携を深め、PTA活動の活性化を図る。 図書館の資料整備・充実を進めて、利用しやすい環境作りに努める。 時間外勤務時間月80時間、年間720時間超を出さない	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
円滑な教育課程の実施	円滑な校務運営と教育課程の実施によって授業時数の確保と確かな学力の定着を図る指導に努める。	授業ローテーションを実施し、必要な授業時数の確保に努める。		A
		授業変更等により、生徒の学習時間が確保できる体制づくりを行う。		A
		他分掌・各学年との連携を深め、円滑な校務運営に努める。		A
		チャイムと同時に授業態勢に入ることや、早めの教室移動を生徒に指導する。		A
生徒の進路希望達成	継続的で組織的なキャリア支援体制を確立する。 生徒の多様な進路希望実現を支援する。	キャリア指導部と学年が連携し将来を見通したキャリア指導計画を作成する。		A
		「進路のしおり」を作成し、各学年段階で必要な指導を継続的に行う。		A
		生徒の進路希望実現に効果的な模試や教材の活用を検討・実践する。		A
		講演会等を計画的に実施し、早期からキャリア意識を高める。		A
指導の徹底と規範意識の涵養	交通安全指導の徹底 基本的生活習慣の確立を促し、自立的な生活態度と規範意識の涵養を図る	登下校時の街頭交通指導・HRや全校集会を通じて交通指導を徹底する。		A
		交通安全講話、バイク実技講習会や駐輪指導を実施し、交通事故防止を図る。		A
		薬物乱用防止講話やインターネットを含む携帯電話に関する講話を実施する。		A
		頭髪・服装検査を学期始めに実施し、全職員で指導の徹底を図る。		A
		朝の声かけを継続的に実施し、遅刻の防止や挨拶の励行を指導する。		A
		委員会の登下校安全や遅刻防止呼びかけ等生徒が互いに注意できる環境を作る		B
部活動と学校行事の活性化	部活動と行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動する態度の育成に努める。	行事への積極的参加を促し、自主的・意欲的に行動する態度を育成する。		A
		部活動紹介等を通じて、全校生徒に部活動への積極的参加を促す。		A
		部活動を通じて、学校生活の活性化を図る。		A
		健康診断を着実に実施し、事後措置についても丁寧に指導する。		A
心身ともに健康な学校生活の実現	安全かつ快適な学校生活環境をつくる。	生徒の心身の健康について、職員間で情報を共有し協働して関わる。		A
		防災計画を確実に遂行し、地震・火災等への安全体制を徹底する。		A
		学校内外の美化に努めるとともに、整美委員会の活発な活動を促す。		B
		定期的な学校生活調査を実施し、いじめ等の現状把握と防止教育に取り組む。		A
保護者との連携の推進	PTA活動に対する保護者の参加を促し保護者と学校との連携を深め、PTA活動の一層の活性化を図る	PTA理事との連携を深め、PTA諸事業への出席者の増加を図る。		A
		PTA広報誌「かけはし」を年2回発行し、学校やPTA諸活動を紹介する。		A
		大学視察訪問を実施し、保護者の進路意識の啓発・向上を図る。		A
		理事会等の実施をとおし、保護者との連携に務める。		A
資料の整備と利用の促進	利用しやすい図書館の環境作りに向けて、資料整備や充実を努める。	図書館資料の充実を図り、授業実施の支援と生徒の学習支援に努める。		A
		図書委員会の活動がより活発になるよう、指導に努める。		A
		蔵書整理や館内環境の整備を進め、将来予想される校舎改修に備える。		A
働き方の見直し	時間外勤務時間月80時間、年間720時間超を出さない	学校閉庁時刻の見直しや定時退校日等を設定し、在校時間の適正化に努める		B
		本校の部活動に係る活動方針で定めた活動時間や休養日等の遵守に努める。		B
各学年での指導の充実	1学年 生徒の自己実現のため、基礎学力の定着と主体的で規律ある生活態度を育成する。	生徒面談を綿密に行い、高い進路目標を持たせ、それに向けて努力させる。		A
		生徒が新しい環境に円滑に適応できるよう、家庭と連携し支援する。		A
		予習復習など家庭学習習慣の定着を目指し、基礎学力を向上させる。		A
	2学年 進路希望の実現に向け、更なる学力の定着と、前向きで意欲的な生活態度を育成する。	自律した高校生になれるよう、学業と課外活動の両立に留意させる。		A
		家庭と連携して、生徒が充実した高校生活を送ることができるよう努める。		A
		卒業後のキャリア形成のため、学習習慣の確立を図り学力の伸長を図る。		A
	3学年 自己実現のための人間力を養成し、学力伸長と進路希望達成を支援する。	学業と課外活動のバランスが取れた、中堅学年に相応しい自覚ある行動を促す。		A
		ガイダンスや個別面談により、生徒が進路等について主体的に考えるよう促す。		A
		家庭と継続的に連絡をとり、生徒が自主的に学校生活を送れるように促す。		A
成果	全学年で実施した進路探究学習、地域探究学習が成果を上げ、資質・能力を高めるとともに、各生徒の課題に対して学びを深めた。3年生は、達成率は下がったものの、国公立大学の合格者数は前年度より増加した。教職員の働きからの見直しを図った結果、ある程度の成果を上げることができた。	模試の有効活用と進路希望別補習の充実とにより、確実な学力伸長を図る。		B
		継続的な情報提供や面接指導を行うことで、主体的な進路決定を促す。		A
		進路ガイダンスと個別指導により、生徒の進路目標達成のための支援を行う。		A
				総合評価
				A